

放医研ニュース

昭和42年3月25日 発行 放射線医学総合研究所 Vol. 10. No. 3.
千葉県千葉市穴川4丁目9番1号 TEL 千葉51局2111番(代表) 印刷 文友堂印刷所

原子放射線の影響に関する 国際連合科学委員会 1966年報告

まえがき

放射線医学総合研究所長

塚本 憲 甫

本号に掲載したのは、Report of the United Nations Scientific Committee on the Effects of Atomic Radiation (General Assembly, Official Records: Twenty-First Session, Supplement No. 14, A/6314, New York, 1966), すなわち、「原子放射線の影響に関する国際連合科学委員会 1966 年報告書」のうちの主文 (Main Text) の邦訳である。この報告書は、1964 年報告以降の環境汚染 (Environmental Contamination) の問題と電離放射線の遺伝的危険度 (The Genetic Risks of Ionizing Radiation) とが主体をなすものである。その詳細については付属書 (Annex) の目次 (33 頁) を参照されたい。なお、この付属書の翻訳については別の機会に刊行したいと考えてはいるが、ここではその目次のみを原文のまま転載する。翻訳、刊行は、国際連合東京

広報センターの了解を得たうえで、放射線医学総合研究所において行なったものである。

放射線医学総合研究所においては、さきに前回の1964年報告書の主文 (放医研ニュース, Vol. 8, No. 2 付録参照) および付属書の一部 (Radiation Carcinogenesis in Man, 放医研ニュース, Vol. 10, No. 2 付録参照) を翻訳、刊行したが、それらに引き続いて、ここに1966年報告書を掲載した次第である。

この報告書を最終的にまとめあげた第16回国連科学委員会は1966年6月6日から17日までの2週間、ニューヨークの国連本部で開催され、日本から政府代表として塚本憲甫 (放医研)、代表代理として田島英三氏 (立大教授)、田島弥太郎氏 (遺伝研部長) および山県登氏 (公衆衛生院学部長) が参加し、討議に加わった。